

## 4. 生活支援課

サービス管理責任者 林 裕一

### 1. 障がい者支援施設サービス実績

○生活介護(定員60名)

月別利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23
延べ人数	1226	1273	1210	1256	1217	1236	1236	1164	1232	1228	1078	1253
1日平均	55.73	55.35	55.00	54.61	52.91	56.18	53.74	52.91	53.57	53.39	53.90	54.48

○施設入所支援(定員60名)

月別利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
延べ人数	1753	1801	1763	1817	1783	1726	1768	1698	1763	1757	1666	1851
1日平均	58.43	58.10	58.77	58.61	57.52	57.53	57.03	56.60	56.87	56.68	59.50	59.71

### 2. 平成30年度重点目標

(1)生きがいのある生活と安心できる生活を目指す。

平成30年度の大きな変化は、一部の利用者の日中活動の併用を開始したことである。エデンの園生活介護、エデンの園生活介護とエデンの園ふれあい(生活介護)、エデンの園生活介護とつむぎ(就労継続支援B型)の併用である。併用利用者においては、活動の幅が広がった。又、働いて報酬を得る喜びを体感し自分で準備をする等、生活意欲に繋がったと考える。

高齢者支援、自閉症支援においては、24時間シートや個別マニュアルを整備し、特性に応じた支援の準備を進めることができた。

(2)権利擁護の推進・意思決定の支援

施設内における権利擁護研修(※1)を毎月実施した。支援の困りごとや悩みを共有し、支援の在り方などをグループで協議し活発な意見交換ができた。又、振り返りの研修を行うことで皆で話し合った支援が実践できているか確認を行った。権利擁護に関する外部研修にも積極的に派遣した。外部研修に参加した職員が、学びや気づきを施設内研修にて伝達した。平成30年度においては、身体的虐待の疑いで1件の通報を行った。

※1 <平成30年度権利擁護研修>

月	内 容	担当者
4	アンガーマネジメント	チーフ・支援員
5	虐待防止チェックリスト	支援課長
6	利用者支援を考える	支援課長
7	「支援で気になること」を皆で考えよう	支援課長
8	知的障害者認知症研修より	チーフ
9	「支援で気になること」検証後に実践できているか	支援課主任
10	日々の支援より気になること	支援課長
11	感染症予防について考える	医務チーフ
12	権利擁護・虐待防止復命研修	チーフ
1	支援の悩み事、困りごと グループワーク	支援課長
2	虐待防止チェックリスト	支援課長
3	虐待疑い(通報)事例よりグループワーク	支援課長

(3)意思決定支援を反映した個別支援計画を作成

サービス管理責任者を中心にチーフ、担当支援員、看護師、理学療法士、管理栄養士が会議に参加し、個別支援計画を作成した。又、業務執行理事の助言のもとに数名の利用者において個人の意味を個別支援計画に反映することができた。より良い個別支援計画にするためには、本人、家族参加の会議を実施することが今後の課題である。

(4)健康の維持・増進を図る

専門職員が協力しあい、運動や栄養の観点から健康の維持増進に努めた。目に見えて維持増進は図れなかったが、楽しく体を動かすことは定着しつつある。健康維持、増進に向けては継続的が必要で次年度も理学療法士を中心に運動などを継続して支援していきたいと考える。又、口腔ケアの充実を図ることができ、歯科通院の際には、歯科医師や衛生士の方よりお褒めを頂いた。内科の通院数が減少したのも口腔ケアの成果であると考えている。

(5)生活の基本である衣食住の充実を図る。

衣類に関しては、季節の変わり目や清潔な衣類に十分配慮することができなかった。ご家族からも衣類に関する意見をもらう事も多々あった。担当職員がしっかりと意識し、支援員が声を掛け合いながらTPOに応じた衣類支援を次年度は行っていきたい。

食事に関しては、外部業者と連携を図り、美味しく、楽しめる食事の提供に努めた。利用者の嚥下、咀嚼機能も年々低下しており、食事形態の検討も必要となってきた。次年度に向け、外部業者と連携を図り、楽しく、美味しい、そして安全な食事の提供を行ってきたい。

居住に関して、活動の内容に清掃を取り入れ清潔な環境を保てるように努めたが十分ではなく、年度の後半から、月に1度環境整備の時間を設定し実施するも改善に至らなかった。次年度に向け美化委員会を設置し改善に努めたい。

(6)働きやすい(働きがいのある)職場環境

人事評価規定、キャリアパス規定を職員に周知するとともに、人事評価の面談等を通して勤労意欲に繋がるように努めた。しかし、人事評価について、評価者、被評価者共に評価項目に対する認識不足もあり十分な成果を上げることができなかった。又、施設内研修において、職員間のコミュニケーション不足が課題としてあがった。お互いを認め、思いやりをもって業務を進めていくためにお互いが積極的なコミュニケーションに取り組む必要がある。

### 3. 活動班報告

#### ○ショコラ班

期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

方針(目的)	知的障がいを伴う自閉症スペクトラムや強度行動障害の特性を理解し、こだわりや行動障害等の軽減を図るため、構造化支援を中心とした個別のプログラムに基づいた支援を行なうと共に、安定した生活を送れるように支援します。		
支援方針	支援の実施	支援の実施による影響	評価
●個別プログラム 一人ひとりのアセスメントをとり、個人に応じたプログラムを取り入れ、情緒の安定を図る。	実施・ <b>一部実施</b> ・未実施	良好・ <b>変化なし</b> ・悪化・不明	<b>A</b> ・B・C
	備考	以前から引き続き構造化支援を行なっている方に対しては、個別に準備したプログラム(ワーク)を提供しながらアセスメントを取り、必要に応じてワークを変更したり回数を調整し取り組んでいただいた。また、新しくショコラ班へ活動の場を移した方に対しても同様に取り組んでいただいた。 ショコラ室内での取り組みが難しい方に対しては、試行錯誤を繰り返しながら職員がマンツーマンで付き清掃・園芸・散歩・ゴミの分別など取り組んでいただくことで穏やかに時間を過ごす事ができた。 また、班会議にて出た意見を基に7月にショコラ室内の配置換えを行い、更なる物理的構造化を行ったことによって以前より周囲に影響されない環境を作る事ができた。 現在進行形にて、日々アセスメントを取りながら試行錯誤を繰り返して、個々に応じた支援が行えるように取り組んでいる。	
●ドライブ・買い物 月に1回以上、ドライブまたは買い物にでかける。	実施・ <b>一部実施</b> ・未実施	良好・ <b>変化なし</b> ・悪化・不明	<b>A</b> ・B・C
	備考	毎週水曜日の午前中に、グループを4つに分けてドライブまたは買い物を実施。個々の状況やアセスメントの結果、月に数回ドライブを組み込んだ方もいた。 多くを施設内で過ごす利用者様にとって、楽しみや外部環境に触れる機会でありどの利用者様も拒否することなく実施することができた。また決まった日程(水曜日固定)にし、必要な方には事前に説明することで、大きな混乱はなかった。	
●フリーデイ実施 ・土用の丑の日(うなぎ)弁当(7月) ・公園にてピクニック(月) ・町内飲食店にて外食(3月)	<b>実施</b> ・一部実施・未実施	良好・ <b>変化なし</b> ・悪化・不明	A・ <b>B</b> ・C
	備考	班のレクリエーションとしては、各々1回フリーデイに参加することができた。それぞれ事前に説明することで大きな混乱も起きず、利用者様の笑顔もみられた。しかし、フリーデイ以外のレクリエーションを行うには至らなかった。特に室内での活動(個別プログラム)に特化してしまい、全体的な運動不足が生じた。	

#### ●事業実施についての目標達成の状況・課題・提案等

在籍する利用者の障がい特性上、構造化支援に重きを置き支援を行なった。個別プログラムにおいては、一人ひとりの特性に応じたワークや作業が提供できるようアセスメントをとる事により、より集中力が持続することができた方や、得意なものは積極的に取り組む姿が見られた。また、配置換えで更なる物理的構造化ができたことにより、周囲を気にせず取り組む事が出来る様になったのは大きな成果と言える。しかしながら、人的余裕がなく当初計画していた散歩や午後の個別プログラムに取り組む事が出来なかった。空白の時間が苦手な自閉症の方にとって大きな痛手であった。また、運動不足を指摘された利用者も多く見られ、班を超えてウォーキングをお願いするなど工夫を行った。

次年度については、構造化が特に必要な方を厳選し午前・午後ともに活動ができることが、より安定した生活を送れる鍵になるかと思われる。また、班での活動を超えて、それぞれ個々に応じた自立課題を班活動以外でも行う事が重要になってくるのではと考える。

○ハイビスカス班

期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

方針(目的)	創作活動を主とし、物づくりへの意欲、興味を持てるように支援します。又、地域清掃や園内美化活動にも挑戦します。		
支援方針	支援の実施	支援の実施による影響	評価
●創作活動	実施一部実施・未実施	良好変化なし・悪化・不明	A・B・C
	備考	空き缶を利用した作品”リメイク缶”製作を中心に活動を進めた。空き缶のラベル剥ぎや表面に紙やすりで傷をつける、塗装、装飾の工程をそれぞれの能力に合わせながら提供した。その中でも、それぞれの特徴(できること)を再発見することもできた。また、クリスマス会に向けての装飾づくりも行った。リメイク缶でクリスマスツリーを作成。色んな方の目に触れることができ、作品づくりに携わった利用者の方も誇らしそうだった。	
●地域清掃・園内美化	実施一部実施・未実施	良好変化なし・悪化・不明	A・B・C
	備考	創作活動の合間に、散歩を兼ねた地域清掃を実施。少人数で火ばさみとゴミ袋を手に、地域のゴミ拾いを行った。天候などに左右されることがあったが、気分転換の一環にもなり、地域貢献にも繋がった。また、園内美化にも力を入れた。比較的、身体機能が高い利用者が所属している班であることもあって、出来る事が多々あった。駐車場の落ち葉拾い、洗濯室外壁の清掃、館内の清掃等を実施。自分たちにできる事を探す中で、それぞれに合った内容を提供できた。	
●レクリエーション	実施一部実施・未実施	良好変化なし・悪化・不明	A・B・C
	備考	調理を2回実施。ホットケーキとおしるこを作った。各利用者が自分でホットケーキを返したり、自分の好みにトッピングを行っていた。今年度は、作品作りに時間を費やし、調理の時間を取る事が少なくなった。しかし、自分で作った食べるという特別感が感じられ皆さん楽しみにされていた。	

●事業実施についての目標達成の状況・課題・提案等

地域清掃に関しては、地域貢献の一環として、継続して行っていくと良いと感じた。園内美化も、普段手が回らない場所の清掃が出来ることもあり、今後も継続して行っていくと良いと感じた。レクリエーションに関しては、作品作りに時間を多く持った為、あまり時間を取る事が出来なかった。楽しみにされている日課の一つなので、1ヶ月～2ヶ月に1回程度実施すると利用者の皆さん楽しみになると思う。創作活動に関しては、リメイク缶を作成する事で、新しい作業工程が確立されつつあった。また、エデンの園の新たな特徴を開発できたので、今後も引き続き作成し、製作販売に繋がっていければと思っています。

○シーサー班

期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

方針(目的)	それぞれの障がい者、視覚障がいの特性を理解し、チャレンジ、経験を積むことで成功体験を増やし、新たな可能性・楽しみを見出せるよう支援します。		
支援方針	支援の実施	支援の実施による影響	評価
●運動	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
	備考	館内ウォーキングとエアロバイクを中心に運動を取り入れた。エアロバイクは、出来る方と出来ない方がおり、全体での取り組みは難しかったが、出来る方にとっては、時間や距離が明確で意欲をもって取り組んでいた様子。	
●洗濯物たたみ	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
	備考	入浴準備の確認や、居室の衣類の整理を職員と一緒にやった。継続的に行うことはできなかったが、自分の衣類を自分で整理するという意識付けになったようである。	
●外出	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
	備考	班のレクリエーションとしては、各々1回フリーディに参加することができた。それぞれ事前に説明することで大きな混乱も起きず、利用者様の笑顔もみられた。しかし、フリーディ以外のレクリエーションを行うには至らなかった。特に室内での活動(個別プログラム)に特化してしまい、全体的な運動不足が生じた。	
●レクリエーション 創作活動	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
	備考	調理や行事などの装飾作成、月初め終わりのミーティングを行った。行事などの装飾作成では、行事への導入がとともに、楽しみを持って行事に向けて日々を過ごす事が出来た。また、装飾をし他者に称賛されることで、喜びへと繋がっていた。作品作りの工程でのヤスリかけは、視覚障がいがある方ない方関係なく、やりやすい工程で、作品を作る楽しみを味わうことができた。	
●点字、白杖	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
	備考	職員の視覚障がい者への支援の仕方の再指導も行き、利用者の方にも再認識を行った。再認識の部分では、地域に出る時には、必ずシンボル(白杖)を所持する事をお願いした。また、毎週月、水、金の陶芸活動には、白杖と点字ブロックを活用し、陶芸室まで移動を行った。その結果、一人で陶芸室に行けるまでになった。	
●事業実施についての目標達成の状況・課題・提案等			
<p>新たな可能性を見出す事に関しては、小さな可能性、楽しみを見出すことができた。他の活動班での作業工程を、シーサー班でもやってみたとところとても楽しそうに行っていた。視覚障がい者の方は、手から伝わってくる刺激や振動などを感じることで、新たな体感を得ることが出来たと思われる。その他の方たちも、感覚や音を楽しみ、完成品を見ることで達成感を感じていたのではないかと思う。また、白杖に関しては、日頃の移動時などに白杖を取り入れる事で、白杖の使い方や目的を思い出す事ができた。創作活動の中で、行事の飾り作りは利用者さんが楽しみにされていた。楽しい行事に向けての準備をすることで、毎日の活力にもなり、マンネリ化もクリアできると感じた。</p>			

○フローラ班 風の街

期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

方針(目的)	一人ひとりの障害の特性・個性にあったプログラムを提供し、それぞれが持っている力を発揮できる環境を整え、健康で楽しみを持った生活を送れるよう支援します。		
支援方針	支援の実施	支援の実施による影響	評価
●食事	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
備考	利用者一人一人の状態にあわせた食事を提供しています。残存機能を活かした食事摂取が出来る様に風の街職員と話し合い支援方針を固めその後、看護師・栄養士・理学療法士・サービス管理責任者と協議し支援方法の決定・掲示を行いました。		
●睡眠	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
備考	担当職員を中心に住環境の整備を行い、一人一人の生活の全体像を踏まえ適切な睡眠が提供出来る様に風の街職員と話し合いながら支援方針を決めていきました。		
●排泄	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
備考	一人一人の排泄状況を担当職員を中心に確認し風の街職員や看護師と適切な排泄を促すことが出来る様に連携し支援方針を決定しました。また、必要があれば排泄パターンのデータを収集し支援内容を変更するなどその時その時の状況に合わせた支援方法を考え形にし実施しています。		
●余暇	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
備考	4月から9月の間は職員数の関係で斑と合同で行う事が多かったため、運動中心の内容でしたが、10月より風の街単体で活動を行う事が出来き、リハビリ計画書に沿った運動・口腔ケア・足浴・クリーンデイなど様々な内容のものを曜日を変えて提供する事が出来き、一人一人の残像機能を活かしながら楽しむことを提供する事が出来ました。		
●入浴	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
備考	一人一人の身体状況を考慮した入浴方法を考えていきました。皮膚など身体上の変化があった時は看護師に伝え、処置をお願いしました。また、皮膚の保湿や身体上の変化があった時には看護師と連携したり、風の街職員と話し合い対処方法や入浴方法を個別に考え実施しました。		
●生活介護	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
備考	4月から9月の間は職員数の関係で斑と合同で行う事が多かったため、運動中心の内容でしたが、10月より風の街単体で活動を行う事が出来き、リハビリ計画書に沿った運動・口腔ケア・足浴・クリーンデイなど様々な内容のものを曜日を変えて提供する事が出来き、一人一人の残像機能を活かしながら楽しむことを提供する事が出来ました。		
●健康	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・B・C
備考	毎朝、健康チェック時に検温、身体状況の確認を行いました。変化があった時には看護師に連絡し通院等を行なっています。また、1月からは午後の検温も行い健康維持に努めました。		

●事業実施についての目標達成の状況・課題・提案等

健康で楽しみのある生活を目指して日々の支援を行いましたが、利用者一人一人の変化に担当職員一人で対応すると負担が大きくなり、結果対応が後手なることが多く見られたため、6月より風の街全体で話し合いを行い、物事を決めていくチームワークを基本としたスタイルへと転換しました。それにより、支援方法の視野が広がりよりよい方向へ進みました。看護師との連携も良くなり質の良い支援方法を行うことができました。反面、身体上の変化がある利用者が3名見られ入院をされた利用者も2名いました。身体上特に内部疾患への対応が今後重点的になってくるように感じられますので、健康面に配慮しながら日々の生活を豊かにする生活支援の提供が必要であると感じられます。

○フローラ班 花の街

期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

方針(目的)	一人ひとりの障害の特性・個性または、加齢による心身の変化を理解し、潤いと意欲を持ってその人らしい活力のある生活を営める環境を構築します。また、状態の変化に気付けるよう日々の観察を小まめに行い健康の維持を図ると共に心身の廃用症候群を防止するために残存機能を活かす支援を行います。		
支援方針	支援の実施	支援の実施による影響	評価
●食事	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	Ⓐ・B・C
備考	身体の状態変化に伴い、看護師、栄養士と連携し食事形態や食器の種類変更などを行い適切で美味しく楽しめる食事の提供を行いました。また、昨年と継続しランチオンマットやタオルなど少しでも家庭的な雰囲気の中で食事ができるように配慮し、食事前の口腔ケアの実施も出来る範囲で行いました。		
●睡眠	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	Ⓐ・B・C
備考	利用者一人一人の生活状況に合わせた睡眠時間を尊重しました。また、排泄特にオムツ交換のある方には排泄時間を調整し十分な睡眠が確保できるように花の街職員・看護師等と話し合い支援方法を決定し実施しました。		
●排泄	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	Ⓐ・B・C
備考	24Hシートを活用し一人一人に合わせたトイレ誘導を行いました。身体上の変化とともに時間帯が変更する方もおり、それに対するアプローチが上手くできないこともありました。		
●余暇	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	Ⓐ・B・C
備考	個々の余暇時間を担当職員を中心に考えていきましたが、アイデアは出るもののマンネリ化しまた明確な目標もないものになりつつありました。また、他職員への伝達も不十分でした。		
●移動	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	Ⓐ・B・C
備考	転倒等の事故が本年度は昨年度よりも多くあり、それに伴い福祉用具を活用し始めた利用者も2名増えました。福祉用具・移動の方法などの検討を担当職員・看護師、理学療法士が連携を行い一人一人にあった移動方法・福祉用具の活用を模索し実施していきました。		
●入浴	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	A・Ⓐ・C
備考	個々の生活スタイルに合わせた入浴時間を提供できるように心掛けました。また、入浴の時間に楽しみを持ってもらうために個人用のシャンプーや石鹸を本人の好みの物を用意しました。しかし、本来の花の街ならではの「ゆっくりとした時間」の確保が難しく今後職員間での話し合いが必要です。		
●生活介護	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	Ⓐ・B・C
備考	基本的には個別のプログラムを中心に日中の活動を行いました。調理や敬老会などを3ヶ月に1回程度行うことができましたが継続的なものや明確な目標をもった事を提供したかを考えると不十分でした。また、個別のプログラムの内容も変化がなく今後、花の街職員全員で考える必要があります。		
●健康	実施・一部実施・未実施	良好・変化なし・悪化・不明	Ⓐ・B・C
備考	健康チェック時に血圧・脈拍・体温測定を行いました。身体上の変化があった場合は看護師に連絡し通院を行っています。3名の方が入院し退院後の生活支援の方法を看護師等と花の街職員とで話し合い決めて他職員へ伝達しています。しかし、その後の評価が上手くいかず同じ内容のものを数か月続けることが多くありました。		

●事業実施についての目標達成の状況・課題・提案等

4月より24hシートを活用した生活支援を提供しよう試みましたが他職員への伝達不足、入所施設独自の運営と24Hシートの内容が上手くかみ合わず、24Hシートの活用が上手くできませんでした。それに伴い、入浴や個人のプログラムの充実が不十分で花の街いわゆる介護棟を作った本来の目的、個別ケア重視の生活空間の意味合いが薄れていった1年となりました。また、入院をされる利用者もおり健康面への配慮、食事形態への配慮など細かな支援への対応が不十分でした。5月には1名退所になり、高齢化が進む今後の事も考えると花の街を中心に看護師・理学療法士・栄養士・サービス管理責任者・相談支援専門員等との連携を細かに行いエデンの園独自の介護サービス形態を作り上げる為にも職員間の会議等を通し専門的な知識・技術と福祉職としての人間力を高め共有する必要があります。

#### 4. 医務事業報告

看護部門は、平成 30 年度につきましては、医務年間計画に基づき支援を行ってきました。今年度は専門家による口腔ケアに加え、職員の口腔ケアの意識、手技の向上が口腔内環境の改善に繋がった。結果、感染症の発症が前年度よりも少なく抑えられたと考えます。受診件数を昨年度と比較しても歯科受診数が増大し、風邪による内科受診の件数も減少している。※通院数は別表参照。

次年度に向けては、感染症ゼロを目指して研修や啓発などを通し感染症に対する更なる意識の向上に取り組んでいきたいと考えている。

月	内科		外科		精神科 精神科 神経科	整形外科	皮膚科	眼科	耳鼻科	歯科	婦人科	通院合計	健診 (男)	健診 (女)	健診合計	給付費外	田中外科	井上病院	入院時 支援	歯科福祉
	田中外科	その他	田中外科	その他													内科診察 (4,10月は複数)	精神科診察		口腔ケア (4,10月は複数)
4	11	1	3			3			2	13		33				8	59	15	3	29
5	15					3	63	6		7		79				8	7	13	6	8
6	17	1			3	4	1	3	1	14	2	46				14	6	14	3	11
7	7	8				4	3	2	2	19		45				17	8	15	5	13
8	6	9			2	1	3	2	1	18		42				11	9	9	4	12
9	14	9			1	2	2	1	1	18		48				11	12	14		8
10	11	6			4	2	4	1		13		41				14	60	15	2	40
11	13	48				2	1	4	4	13		85	7		7	13	6	10	1	10
12	9	1				6		5	1	11	1	34	9		9	6	7	14		8
1	8	1				2	2	2	2	13		30	5	6	11	10	4	15	4	5
2	5					6			1	15	2	29		8	8	12	7	13	4	10
3	14					5	3	1	2	19		44		17	17	6	4	14	2	10
計	130	84	3		10	40	82	27	17	173	5	556	21	31	52	130	189	161	34	164

性別	病名	入院機関	入院期間
男性	大腿骨頸部骨折	県立宮崎病院	平成30年3月14日～6月11日
男性	肺炎	田中外科	平成30年4月17日～5月2日
男性	低ナトリウム血症	潤和会記念病院	平成30年6月29日～8月27日
男性	前立腺肥大症	野崎東病院	平成30年10月22日～11月1日
女性	薬剤調整	井上病院	平成30年10月22日～3月15日

#### 5. 給食状況

給食部門は、平成 30 年度については、ご利用者の方全員について個別支援計画に沿って支援を行ってきました。具体的には、個々のご利用者について、日常生活の状況や、身体的状況および嗜好等も踏まえ、その人に合った栄養ケア計画を策定し、他の部門の支援と連携をとりながら、食事の提供等を行ってきました。

施設のご利用者においては年々高齢化が進んでおり、それに伴い嚥下が困難な方も増えてきております。現在ご利用者の1/3の方に対しては介護職(きざみ食等)の提供を行っており、今後も増えてくることが考えられますので、その都度栄養ケア計画の見直しを進めてきました。そういった状況ではありますが、食事はご利用者の楽しみの一つですので、できるかぎりそういった楽しみを享受していただくために、栄養バランスはもとより、季節のものや色彩等も考慮して食事を提供していくことを第1に考えております。



個別支援計画では、ご利用者個々の身体状況の変化や嗜好等を他の部門の職員と協議を重ねて、よりその人に合った支援を策定し、ご家族の意向も取り入れながら支援を行ってまいりましたが、ご利用者の中には栄養状態がなかなか改善されない方もいらっしゃいますので、今後も他の部門の職員との連携をより密にし、ご家族の協力も仰ぎながら、個々のご利用者のために尽力していきたいと考えております。

・平成30年度年間給食実施総食数内訳

区分 月別	利用者			ショートステイ	生活介護	月別合計
	常食	刻み食	療養食			
4月	2,316	1,674	1,045	69	81	5,185
5月	2,483	1,639	1,103	50	79	5,354
6月	2,290	1,629	1,139	58	79	5,195
7月	2,355	1,713	1,112	57	81	5,318
8月	2,336	1,693	1,078	63	80	5,250
9月	2,309	1,722	1,073	61	72	5,237
10月	2,386	1,715	1,069	119	71	5,360
11月	2,260	1,723	976	113	77	5,149
12月	2,331	1,776	979	149	68	5,303
1月	2,253	1,767	987	116	75	5,198
2月	2,142	1,627	899	120	68	4,856
3月	2,384	1,786	1,064	44	46	5,324
区分別合計	27,845	20,464	12,524	1,019	877	62,729

・給食栄養状況

	熱量	蛋白質	脂質 エネルギー比	カルシウム	鉄	ビタミン				食物繊維	食塩
	(Kcal)	(g)	(%)	(mg)	(mg)	A(μg)	B1(mg)	B2(mg)	C(mg)	(g)	(g)
4月	1,794	60.7	18.9	537	8.4	525	0.88	0.69	96	16.9	7.7
5月	1,788	61.4	18.0	515	8.5	569	0.90	0.74	152	16.7	7.4
6月	1,766	61.8	17.7	522	10.2	1,008	0.97	0.75	102	17.4	7.3
7月	1,773	60.4	18.6	532	8.6	823	0.93	0.69	100	16.6	7.4
8月	1,772	60.9	18.0	535	8.8	1,229	0.95	0.81	97	17.2	8.0
9月	1,792	61.0	19.3	583	10.5	512	0.90	0.68	88	16.8	7.4
10月	1,796	61.4	18.6	557	8.3	764	0.90	1.59	92	17.0	8.0
11月	1,781	61.9	18.5	570	9.2	1,189	0.91	0.76	97	16.0	7.5
12月	1,784	60.2	19.1	535	8.7	1,125	0.89	0.74	95	16.3	8.0
1月	1,813	59.8	18.7	563	9.2	588	0.85	0.72	113	17.5	7.3
2月	1,816	62.0	19.3	601	9.8	611	0.90	0.70	111	17.3	7.7
3月	1,837	61.2	19.8	583	9.0	805	0.93	0.71	96	17.3	7.9
月平均	1,793	61.1	18.7	553	9.1	812.3	0.9	0.80	103	16.9	7.6
栄養所要量	1,875	55.0	20~30	675	10.5	775	1.1	1.3	100	19	8g未満

## 6. 行事報告

行事名	イースター・召天者記念会	実施日	平成30年4月21日(土)
担当者	法人事務局		
評価・反省 次年度への 課題	昨年度の反省を元に、法人事務局管轄での計画となった。全体を通しての反省として、依然として法人全体での行事という意識が希薄のように感じた。その結果、“支援課が準備するだろう”というスタンスが残り、今回の様な不備が出てきたのではないかと考える。また、イースター・昇天者記念会と家族会を同日に行う事が困難に感じた。		

行事名	スポーツレクリエーション	実施日	平成30年5月30日(水)
担当者	谷口博孝、緒方敬士、末原福德		
評価・反省 次年度への 課題	今年度は「風の街」「花の街」「シーサー班」「ハイビスカス班」「ショコラ班」に分かれての競技実施であったが、利用者の運動機能状態に合わせた競技参加を行ったことにより怪我等も無く安全に楽しく終了することができた。その反面、今年度より「ふれあい」「つむぎ」を利用される利用者もおり連絡調整が不十分であった。準備は昨年とは違い、担当職員が協力し合い準備する事が出来た。装飾、競技準備とスムーズに準備する事ができていた。		

行事名	エデンの園 まつり	実施日	平成30年9月20日(木)
担当者	長嶺裕美、園田海生、松下里美、庵崎梢、中嶋啓雄、濱田誠		
評価・反省 次年度への 課題	昨年の反省及び職員数等を考慮し、平日午前中に風ホールにて実施。既存の物品を存分に利用しながら祭りの雰囲気を出すように心掛けた。祭りの露店で見かける「綿菓子」、ゲーム参加型の「すいか割り」「輪投げ」コーナーを設け、参加しても見ても楽しめるものとなった。担当職員以外の提案にて、祭りの最後にアップテンポな曲でダンスや音楽も楽しむ事ができた。法人全体での祭りではなく規模を縮小したこともあり、昨年の課題として挙げられていた「地域参加型」のまつりにはならなかった。		

行事名	県央交流レクリエーション	実施日	平成30年12月7日(金)
担当者	山本和寛 杉尾可奈子		
評価・反省 次年度への 課題	入所施設から5名の利用者が参加出来た。競技内容も利用者にとって分かりやすく、時間配分も余裕があり、ゆっくりと競技に参加ができた。玉入れの競技では、途中懐メロ曲が流れるなど、利用者が楽しめる工夫がされており、充実した交流となった。感染症流行時期の開催は、互いの施設が大きなリスク(施設内での感染症蔓延)を伴う為、施設間で開催時期の検討が必要と感じた。		

行事名	クリスマス会	実施日	平成30年12月21日(金)
担当者	谷口博孝、緒方敬士、末原福德		
評価・反省 次年度への 課題	今年度は、一ヶ月前より利用者、職員共に協力し合い準備を進めた。みんなで作り上げるクリスマス会が達成されたように思われる。また、礼拝だけではあったが「ふれあい」事業所のご利用者も参加され今までは違うクリスマス会となった。そのような中、式典中に1名の方がてんかん発作をおこし、利用者一人ひとりの健康状態に合わせた細かな予防策がなされていなかった。「ふれあい」「つむぎ」事業所との連絡の調整、更なる職員間の自発的な協力体制作りが必要かと思われる。		

## 7. 各種委員会報告

### ○防災委員会

平成 30 年度年間計画に基づいて、次の項目を実施した。①防災(地震及び火災)訓練計画、実施による自衛消防体制の確立。②災害時の避難誘導體制の確立。③消防機器の管理、防災管理会社との連携・調整。④応急手当の習得。また、⑤緊急時・災害時の非常食対応の訓練も実施した。

月	訓練種別	想定	目的	状況
4	—	—	—	未実施
5	教育	—	機器の取り扱い。火災発生時のフロー・役割確認	新任職員 4 名が参加し、宮崎防災の指導のもと機器の取り扱いと実際の放水訓練(消火栓・水消火器)、防災係りからは火災発生時のフローチャート確認を行なった。
6	—	—	—	未実施
7	総合防災 消火 通報 避難 救出	火災	①各活動場所からの非難誘導體勢、経路の確立 ②担架の使用 方法	①声をだす、火元を周知するなどの情報共有が出来ておらず、また機器の操作に関しても不安を感じる訓練となった。非常ベルが鳴ってから初動も遅く、他人に頼る姿勢が感じられた。実際の火災をイメージしたシミュレーションや訓練を強化する必要がある。 ②西部出張所の消防士より演習。人を抱え上げる方法、担架の使用 方法、毛布やタオルケットを使う方法など学べ実践的な講習となった。
8	災害シミュレーション	災害時のライフライン停止	非常食の保管場所確認及び、調理・配膳	レトルトパウチ(肉じゃが)を昼食の小鉢で提供した。少人数(5名)の訓練で声を掛けあい易く動きやすい印象を受けた。開封・刻み・盛り付け等の担当を分担する事で衛生的にも時間的にも効率よく行うことができた。
9	教育	防犯	防犯時対応フローチャートの確認	防犯時対応フローチャートの説明を行なった。防犯があった場合の基本的な行動を確認し、今後の防犯訓練に活かしてもらうことが狙い。
10	—	—	—	未実施
11	総合防災 消火 通報 避難	地震 火災	各活動班場所からの避難誘導體勢、経路の確立	地震後、火災が発生した際の訓練。支援員が声を掛けあいながら情報を伝達し誘導を行っていた。放送の指示も的確であった。火災想定では防火扉を閉めているが、地震が発生した時は開けるよう、協同防災より指示があった。
12	教育	—	応急手当(心肺蘇生法・AED)に対する知識の習得を図る	新任職員 4 名が参加。内 3 名は以前にも講習を受けたことがあるとの事だったが、時間の経過と共に記憶や意識も薄れていくため定期的な講習が必要だと感じた。
1	—	—	—	未実施
2	消化 通報 避難	夜間 火災	夜間の避難誘導體勢、経路の確立。	夜間想定での訓練であった。基本的な「大きな声を出して」状況を周囲に周知できていない、逃げ遅れ者の確認時すみずみまで見ていない等、基本的なことが出来ておらず課題となった。今年度は法定訓練を含めた 3 回のみでの訓練であったため、来年度は回数を増やすことを検討したい。また、有事の際に職員であることが判別できるようビブス等の購入も検討事項となった。
3	—	—	—	未実施

## ○広報委員会

今年度より「一粒の麦」をカラー印刷へ変更しました。カラーになったことで鮮やかになりとても見やすくなりました。

発行日	主となる内容	発行月	主となる内容
5月	各事業所紹介	10月	40周年記念号
7月	高齢者支援	1月	就労支援

各号、p1は表紙 p2は巻頭言 P3・p4は各事業所の内容 p5はアートコーナー(ご利用者が作成された作品の紹介 p6はボランティア・寄付金等の紹介を記載しています。

例年は4月に第一号を発行する予定でしたが、「つむぎ開所」に伴い、各事業所の紹介を改めて行うことになり、準備が3月中に困難であったため5月が30年度第一号となり、10月の40周年記念号は40周年式典に合わせた発効日になるため、本来ならば3ヶ月開けての発行のところを、7月発行の運びとなりました。また、10月は40周年記念号として、10ページに増量し内容もエデンの園の歴史を時系列に記載したものや、永年勤続者の感謝の言葉などを記載しとても好評であった。また、7月より竹田地区への配布など事業所が所在する地域への配布を行う等、地域福祉の一貫としてもその役割を担うことができたと感じられました。

### ○広報委員会会議

今年度より一粒の麦などの内容を委員会職員で話し合い決定することになりました。各事業所職員と話し合う事で内容が充実し編集作業の簡素化にも繋がり1つのチームとして作り上げることができました。来年度も引き続き委員会を計画し配布先の内容を整理し「社会福祉法人 エデンの園」の発信源としての役割を担って行くことが出来る様に進めて行く必要があると感じました。

### ○委員会開催月

5月号	4月	10月号	8月・9月
7月号	5月	1月号	11月

平成30年度は「一粒の麦」が中心となる委員会となりましたが、「広報」という意味では現代社会においては、それだけではなくホームページの充実やSNSの活用なども視野に入れた活動も行う必要があると感じました。各事業所が所在する地域への発信源となり、地域の人々が福祉に関する問題を気軽に相談できる窓口になるような役割も担う「一粒の麦」となるように様々なものを考察していく必要があると感じました。

## ○研修委員会

期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

方針(目的)	職員のスキルアップを図る為研修の年間計画と運営を行い、サービスの質の向上に努める。		
支援方針	支援の実施	支援の実施による影響	評価
●新任研修プログラムの実施	実施・ <b>一部実施</b> ・未実施	良好・ <b>変化なし</b> ・悪化・不明	A・ <b>B</b> ・C
	備考	昨年度より新任研修用資料を準備し、4月より1カ月かけて実施。研修には8名新任職員が出席、研修後は各事業所に分かれ業務に就かれた。新任研修自体は予定通り実施できたものの、資料の不備や日程調整の不十分な所も見られた。また3、6、12カ月振り返りが上手く実施できなかった。	
●職場内研修(OJT)の整備、実施	実施・ <b>一部実施</b> ・未実施	良好・ <b>変化なし</b> ・悪化・不明	A・ <b>B</b> ・C
	備考	理学療法士が単独で研修は開いてくれたものの、研修委員会主催の職場内研修がなかなか実施できなかった。2月に試験的に実施し、ほとんどの職員が参加され、職員間の交流にもつながった。各事業所内でも定期的に事業所内研修を実施している所もあったが単発的な物が多かった。2月実施研修内容(仕事の困りごとディスカッション研修)	
●職場外研修(OFF-JT)の整備	<b>実施</b> ・一部実施・未実施	良好・変化なし・ <b>悪化</b> ・不明	A・B・ <b>C</b>
	備考	4月に宮崎県福祉研修センター主催の研修に関しては登録一覧を各事業所へお渡しし、多くの職員が研修に参加した。しかし、職員数・事業所数の増大による周知不足等が原因で不参加になってしまった研修等もあった。また、研修には多くの職員が参加したものの、研修後のフィードバックがほとんどされておらず、研修自体が中身の無いものになっていた。	

### ●事業実施についての目標達成の状況・課題・提案等

新任研修プログラムは、実施はできたものの、資料の不備、日程調整が不十分、講師を担当する職員のスキル不足など様々な問題が浮き彫りとなった。資料準備に関しては次年度は各講師に資料の作成・印刷・配布まで行って頂き、講師としての自覚を持って頂くようにしていく。日程に関しても早急に日程表を各事業所に配布し、随時調整が出来るように柔軟な対応をしていきたい。また、定期的な新任振り返りは計画を4月の段階で作成し、新任職員や各事業所に配布し確実に実施していけるように検討。

職場内研修は、計画も不十分で初回実施が2月になってしまった。次年度は年間計画を作成し、毎月実施していけるように検討。また、各事業所での研修等の要望もあがってきている為、各事業所サービス管理責任者に呼びかけていながら、実施できるように検討。次年度は職場内研修のイメージを一新し、エデンの園での研修が良いイメージ・積極的に参加できる風土づくりを目指していきたい。

今年度、約100名近くの職員が職場外研修に参加した。しかし、上記のように研修後のフィードバックがほとんど見られず、業務や支援に反映されていないように感じた。多くの研修に参加したものの、法人に還元が少ないことを考慮すると研修に対するコストの見直しが必要だと感じた。また、報告書に関しても、学んできたことや上司期待などがなかなか連動しない事がほとんどだったため、様式を一新し上司との面談も含めた研修参加・報告・フィードバックが連動していくことを目指していきたい。

研修委員会として今年度は新たな課題に多く気づくことが出来た。来年度は職場内研修を精力的に実施しコスト面でもウエイトをかけていきたいと考える。また今までのシステムなどを一新し、なおかつエデンの園の研修に関する風潮を改善していくために、改革を進めていながら人材育成を強化していきたい。

◎30年度研修参加状況

○県内研修

研修名	研修日	研修先	受講者
社会福祉経営セミナー接遇力アップ研修	4月23日	シーガイアコンベンションセンター	総務課職員
経営協総会及びセミナー	5月8日	宮崎観光ホテル	課長
福祉の基礎知識習得研修	5月17日	福祉総合センター	生活支援員
福祉の基礎知識習得研修(児童・保育)	5月24日	福祉総合センター	生活支援員
職場研修企画者養成研修	5月30・31日 6月28・29日	福祉総合センター	副主任
認知症ケア研修	6月1日	宮崎観光ホテル	相談支援員 生活支援員
問題解決能力スキルアップ研修	6月5日	福祉総合センター	生活支援員
新任職員等防火研修会	6月11日	宮崎東諸広域防災センター	生活支援員
コミュニティソーシャルワーク研修	6月12日	福祉総合センター	主任・副主任 相談支援員
研修会(便秘について)	6月14日	田中外科	主任
宮崎県知的障害者施設協議会新任研修	6月14・15日	福祉総合センター	生活支援員
発達障害研修	6月21日	福祉総合センター	生活支援員
研修会(関節注射等アルツ)	6月27日	田中外科	主任
平成30年度経営協セミナー	7月4日 12月11日	シーガイアコンベンションセンター	課長・課長補佐
記録技術基礎研修	7月5日	福祉総合センター	生活支援員
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員コース	7月10・11日	福祉総合センター	生活支援員
平成30年度地域福祉コーディネーター研修	7月11・31日 8月22日 9月18日	宮崎観光ホテル	主任
労務管理研修	7月12・19・25日	シーガイアコンベンションセンター	主任
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダーコース	7月12・13日 7月24日・25日 7月31・8月1日 8月23・24日	福祉総合センター	チーフ
みやぎき安心セーフティネット研修会	7月24・25日	シーガイアコンベンションセンター	事務局長
感染症研修	7月26日	宮崎観光ホテル	生活支援員
自立支援型ケアマネジメント合同研修会	7月26日	綾町高齢者研修センター	事務局長
OJTスキル実践研修	8月2日 8月3日	福祉総合センター	チーフ
クリーン事業研修	8月7日	宮崎県庁	生活支援員
アートマネジメント講座	8月8日	宮崎県立図書館	生活支援員
平成30年度社会福祉経営支援セミナー「広報研修」	8月10日	シーガイアコンベンションセンター	主任
平成30年度宮崎県地域防災士養成研修 基礎コース	8月18日	国富町役場	チーフ補佐
部下のやる気を引き出すコーチング研修	8月21日	福祉総合センター	相談支援員
喀痰吸引研修	8月22日～	宮崎東病院	生活支援員
平成30年度社会福祉経営セミナー「経営・財務管理研修」	8月23・24日	シーガイアコンベンションセンター	課長補佐
ターミナルケア研修(管理者)	8月28日	福祉総合センター	チーフ

研修名	研修日	研修先	受講者
平成30年度リーダー養成研修	8月29日	福祉総合センター	相談支援員
OJTスキル基礎研修	8月30・31日	福祉総合センター	生活支援員
記録技術応用研修	9月5日	福祉総合センター	チーフ
社会福祉法人理事研修	9月7日	宮崎観光ホテル	課長
発達障害研修	9月7日	シーガイアコンベンションセンター	生活支援員 理学療法士
福祉職員のための医学基礎知識研修	9月11日	宮崎観光ホテル	生活支援員
強度行動障がい支援者養成 基礎研修	9月22・23日 11月24・25日	福祉総合センター	チーフ 生活支援員
接遇力アップ研修	9月28日	シーガイアコンベンションセンター	課長補佐
平成30年度宮崎県相談支援従事者初任者研修	10月2・3日	宮崎市民文化ホール	副主任・チーフ
障がい者虐待防止権利擁護研修	10月22日 11月13日	宮崎観光ホテル	課長・チーフ 生活支援員
発達障害理解のための基礎講座	10月23日	向陽の里	主任・チーフ
農福連携全体研修会	10月24日	総合農業試験場	事務局長・チーフ 生活支援員
みやざき安心セーフティネット研修会 平成30年度相談支援研修(応用編)	10月26日	宮崎観光ホテル	課長
福祉職員キャリアパス対応生涯研修 初任者コース	11月1・2日 11月27・28日	福祉総合センター	生活支援員
ターミナルケア研修(基礎編)	11月13日	宮崎観光ホテル	生活支援員
障がい者虐待防止権利擁護研修 従事者コース	11月13日 11月26日 12月6日	福祉総合センター	課長・チーフ 生活支援員 相談支援員
平成30年度宮崎県相談支援従事者現任研修	11月14～16日	キリシマツブキ武道館	相談支援員
平成30年度障がい者職業生活相談研修	11月21・22日	宮崎県職業能力開発促進センター	チーフ
工賃向上リーダー研修	11月27・28日	小林市総合庁舎	生活支援員
福祉サービス苦情解決セミナー	11月29日	シーガイアコンベンションセンター	主任
地域生活支援拠点の整備促進に関する研修	11月30日	宮崎市民文化ホール	施設長・課長 課長補佐・主任
平成30年度全国社会福祉法人経営青年会九州ブロック定例勉強会	11月30日	宮崎観光ホテル	課長補佐
地域福祉コーディネーター養成研修	12月3日	宮崎観光ホテル	主任
平成30年度宮崎県サービス管理責任者研修	12月3日 1月10・11日	宮崎市民文化ホール	副主任 チーフ
放課後等デイサービス連絡検討会	12月4日	宮崎市民プラザ	チーフ・生活支援員
クレーム対応&メンタルケア研修	12月13・14日	シーガイアコンベンションセンター	課長補佐
新任社会保険事務担当者研修会	12月18日	JA AZMホール	総務課職員
メンタルヘルス研修中堅職員編2	12月19日	福祉総合センター	生活支援員
クリーン事業研修	12月20日	はまゆう園	生活支援員
平成30年度生活困窮者支援フォーラム	12月21日	宮日会館宮日ホール	相談支援員
ワークショップ自閉支援研修	1月13・14日	福祉総合センター	生活支援員
平成30年度産部会合同研修	1月15日	福祉総合センター	施設長・課長 主任・チーフ

研修名	研修日	研修先	受講者
人材アセスメント研修	1月23日	福祉総合センター	課長・課長補佐 副主任
強度行動障がい支援者養成 実践研修	1月26・27日	福祉総合センター	チーフ、生活支援員
平成30年度県知協第36回合同研修会	2月2日	宮崎観光ホテル	生活支援員 理学療法士
部下のやる気を引き出すコーチング研修2	2月8日	福祉総合センター	理学療法士
管理者マネジメント研修	2月13日	福祉総合センター	主任
南海トラフ地震への備え	2月15日	宮崎公立大学	主任
平成30年度県内GH世話人等研修会	2月18日	福祉総合センター	生活支援員
障がい者理解とコミュニケーション研修	2月19日	福祉総合センター	生活支援員
平成30年度県経営協議会セミナー	2月25日	シーガイアコンベンションセンター	課長・課長補佐
平成30年度障がい者雇用納付金制度事務説明会	2月28日	JA AZMホール	課長補佐
県内GH職員研修	3月8日	清松園やすらぎの里	チーフ
会計財務決算事務研修	3月13日	シーガイアコンベンションセンター	総務課職員
福祉避難所となる福祉施設向け事業継続計画策定研修	3月14日	福祉総合センター	課長・課長補佐
平成30年度重症心身障害児(者)受け入れ事業所への研修	3月14・15日	日南病院	看護師 理学療法士

### ○県外研修

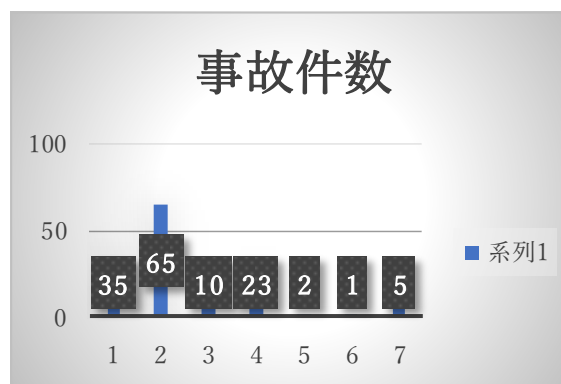
研修名	研修日	研修先	受講者名
九州知的障害者施設協議会各県正副部会長会議	4月26日	福岡市	施設長
平成30年度運営委員会及び施設長セミナー	6月6・7日	東京都	施設長、生活支援員
国立のぞみ園支援者養成現任研修	6月25～29日	国立のぞみ園(群馬県)	生活支援員
知的障害者高齢期支援研修	6月29・30日	熊本県	生活支援員
九州知的障害者施設協議会 日本知的障害者施設協議会施設長会	7月1～3日	東京都	施設長
平成30年度全国盲重複障害者福祉施設研修協議会	7月19・20日	大阪府	生活支援員
平成30年度第51回九州地区知的障害関係施設職員研修大会	7月26・27日	熊本県	チーフ 生活支援員
障がい者虐待防止権利擁護指導者養成研修	8月6・8日	東京都	施設長
九州地区知的障害者施設協議会日中活動支援部会研修会	9月27日	山口県	施設長
県外施設施設研修	10月4・5日	大分県 福岡県	主任 生活支援員
平成30年度相談支援、就学支援セミナー	10月10・11日	神奈川県	相談支援員
全国盲重複施設研究大会	10月24・25日	千葉県	施設長
全国盲重複障害者福祉施設研究協議会	10月25・26日	千葉県	生活支援員
社会福祉施設職員会計実務研修	11月24・26日	神奈川県	総務課職員
日中活動支援部会全国大会	11月29・30日	神奈川県	課長補佐
九州地区活動支援部会	12月12日	福岡県	施設長
平成30年度九州地区相談支援事業合同研修会	12月13・14日	佐賀県	相談支援員
九知協種別部会合同研修	2月5・6日	福岡県	施設長、相談支援員 生活支援員



## 8.事故報告・ヒヤリハット報告

### 【事故報告】

1. 薬に関すること
2. 利用者の行動
3. 転倒
4. 職員の行動
5. 環境・福祉用具
6. 無断外出
7. その他



内容	H30 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H31 1月	2月	3月	計
1. 薬に関すること	4	2	4	3	2	3	2	5	4		3	3	35
2. 利用者の行動	7	2	6	8	6	9	5	3	3	3	4	9	65
3. 転倒		2			1		1		1	1	3	1	10
4. 職員の行動	4	1	3	1	2	1	1	6	1			3	23
5. 環境・福祉用具			1		1								2
6. 無断外出		1											1
7. その他								1			2	2	5

※薬に関すること・・・誤薬・薬が落ちていた・投薬忘れ・準備忘れ 等

※利用者の行動・・・異食・盗食・利用者間トラブル 等

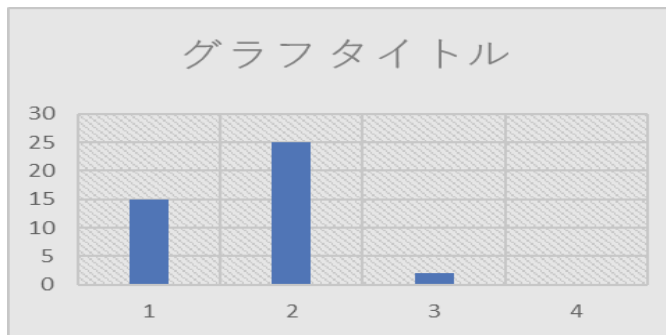
※職員の行動・・・施錠忘れ・機器の取り扱いミス・設備の破損 等

※福祉用具・環境・・・設備の不具合、破損 等

事故報告件数は141件。内訳は、薬に関することが 35.2%、利用者様の行動による事故の報告が 65%、転倒が 10%であった。薬の事故報告に関しては29年度が 74 件だったのに対し、30 年度は 35 件と大きく改善されてきている。理由として、服薬時の手順を再検討、改善を行い、服薬時の手順を職員会等で実践し、再周知した。また、定期でダブルチェックの徹底等呼びかけた事が意識付けになり、事故の減少に繋がったと思われる。今年度は利用者の行動の事故件数が多く挙げた。入所利用者の支援体制が整っていなかったこと、業務内容の見直し等が追いつかなかった事が要因であると考え。

【ヒヤリハット報告】

- 1. 利用者の行動
- 2. 職員の行動
- 3. 環境・福祉用具
- 4. その他



内容	H30 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H31 1月	2月	3月	計
利用者の行動		2	1		2	2	3	3				2	15
職員の行動	3	2	3		6	1	4	4	1			1	25
環境・福祉用具						1	1						2
その他													0

※利用者の行動・・・誤嚥・転倒・車椅子から立とうとする 等

※職員の行動・・・施錠忘れ・薬に関すること(セットミス、渡し忘れ) 等

※環境・福祉用具・・・機器の不具合、設定ミス 等

## 9. 苦情解決・はびねすの窓

### ○苦情解決(相談)

申出人	内容	対応
家族A	<p>男性利用者が帰省した際に下肢の皮膚状態(描き傷が悪化)が悪く、帰園の際に、担当支援員、看護師に相談があった。これまでは、自傷があるため夏場でも薄い長そで、長ズボンを着用して頂くように個別支援計画者にて同意を頂いていた。「この時期にこのような衣類をきているから痒みができる」と話がある。又、更衣をするため居室のダンスを確認するとダンスの中に血液で汚れた下着が入っていた。</p> <p>・まず、通院を行ってほしい。 ・支援の方法を見直してほしい。</p>	<p>すぐに謝罪を行い、下記の対応を行った。</p> <p>①長袖を半袖、下着をブリーフからトランクスに替え、あせもの状態を評価することとし、すぐに通院をした。 ②汚れた衣類がダンスに入っていたことに対して、担当支援員、活動班チーフに指導を行った。 ③苦情内容を職員会で報告し、情報の共有を図ると共に、ご家族の気持ちに立ち、支援を行うように伝えた。 ④治療内容と支援方法について全支援員に周知を行った。</p>

## ○はびねすの窓

苦情解決第三者委員(外部) 並 タツ氏、日高義治氏

月日	申出人	内容	対応
7.21	グループホーム 利用者A	グレープフルーツでの経験を今の音楽活動に活かしている。つむぎの活動に興味がある。実習でもいいので体験したい。	担当者へ報告を行う。
	施設 利用者B	・買物の時にビーズが買いたい。 ・夜は静かに過ごしたい。 ・家族の事が心配。	
	施設 利用者C	・音楽を聴くのが好き。 ・つむぎで仕事がしたい。 ・グループホームに入りたい。 ・洗濯で靴下がなくなることがある。	第三者委員より、小物は自分で洗濯をしてみてもと助言。
	グループホーム 利用者D	・今の生活に満足している。 ・買物で買いたい物は、ボンタアメと兵六餅	
	施設 利用者E	・困ったことはない。職員も優しい。	
	施設 利用者F	・困っていることはない。ご飯もおいしい。	
3.16	施設 利用者G	・両親が半年の間に亡くなり寂しい。自分は元気頑張る。 ・つむぎで給料をもらえてうれしい。食べることが好きなので、お金を貯めて美味しい物を食べに行きたい。	
	施設 利用者B	・荷物が届いてうれしい。 ・喘息で苦しいときがある。 ・好きな職員が辞めるから淋しい。	喘息に関しては、定期的に治療。
	施設 利用者H	・お茶を沢山飲みたいので急須が欲しい。 ・CDがなくなることがある。	・急須は支援員が購入。
	施設 利用者E	・今日家族が来た。飴を持ってきてくれた。	
	施設 利用者I	・大好きな塗り絵を持ってきて、第三者委員に見てもらおう。	
	施設 利用者F	・今日、ねえちゃんが来た。 ・困ったことはない。	
<p>第三者委員による、苦情解決相談を2回実施した。2回の相談会を通して、「ふれあい」「つむぎ」での活動が生活のハリに繋がっているように感じた。中でも、「つむぎ」の活動に満足している。興味を持っているという声を聞いた。『働いて報酬を得る』ということが、どんなに尊く、生きがいに繋がっているのか利用者の方々の声を聴くことで実感することができた。</p>			

## 10. ボランティア受入

No	期日	個人・団体名	人数	内容
1	平成30年8月11日	金牧師 韓国学生ボランティア	10名	中庭の草むしり、窓ふき
2	毎月第2、第4月曜日	家族ボランティア	5名	汚物入れ、ウエス作りなど

## 11. 実習生受入

No	期間	学校名・施設名	人数
1	5月7日～5月18日	近畿大学九州短期大学	2
2	6月22日、6月25日	宮崎学園短期大学(施設見学実習)	3
3	8月16日～29日	宮崎学園短期大学(保育実習Ib)	1

## 12. ショートステイ

### ○ショートステイ利用実績(男子)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A	8	8	8	8	6	8	8	8	6	4	0	4	76
B	2	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	22
C	8	5	10	6	6	0	0	0	0	0	6	7	48
D	5	5	5	5	9	11	9	0	12	0	2	0	63
E	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
F	0	0	2	3	6	3	7	7	7	7	7	5	54
G	0	0	0	0	0	0	0	4	4	2	0	2	12
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	10
合計	30	18	27	24	29	24	26	21	31	15	23	24	292

### ○ショートステイ利用実績(女性)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
J	4	4	3	5	0	4	2	0	0	0	0	0	22
K	2	2	2	2	0	2	2	2	2	0	2	0	18
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
O	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
合計	6	6	5	7	0	6	4	2	2	3	2	1	41

今年度は、新規利用の方も含め男女13名の方が、利用されました。内、新規の方は3名となっています。表記の通り、毎月ショートステイ利用が入っていました。急な依頼や長期間の利用に対応することができ、介護者のニーズにも対応することができたと考えます。

### 13. 土曜学校

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4月	7日 金牧師	14日 海老原牧師	21日 印牧師 イースター	28日 山口牧師	
5月	5日 廣瀬施設長	12日 印牧師	19日 海老原牧師	26日 山口牧師	
6月	2日 金牧師	9日 印牧師	16日 荒平牧師	23日 山口牧師	30日 浅野牧師
7月	7日 山口牧師	14日 印牧師	21日 海老原牧師	28日 金牧師 ボランティア来園	
8月	4日 印牧師	11日 金牧師 ボランティア来園	18日 荒平牧師	25日 山口牧師	
9月	1日 金牧師	8日 印牧師	15日 海老原牧師	22日 山口牧師	29日 浅野牧師
10月	6日 金牧師	13日 印牧師	20日 荒平牧師	27日 山口牧師	
11月	3日 印牧師	10日 金牧師	17日 荒平牧師	24日 山口牧師	
12月	1日 金牧師	8日 印牧師	15日 海老原牧師	22日 山口牧師	
1月	5日 金牧師	12日 印牧師	19日 中止 感染症対策の為	26日 山口牧師	
2月	2日 金牧師	9日 印牧師	16日 海老原牧師	23日 山口牧師	
3月	2日 金牧師	9日 印牧師	16日 荒平牧師	23日 中止 感染症対策の為	30日 浅野牧師

- ① 宮崎市内の6つの教会から牧師に来ていただき、聖書からのメッセージをしていただきました。毎週一緒に讃美し、イエス様のお話を分かりやすくメッセージしていただき、共に祈る時間をもつことが出来ました。
- ② 1月19日、3月23日の計2回の土曜学校は、園内で利用者が感染症の疑い、又は発症があったので拡大防止の為に中止。

～来園者牧師～

\*金 桓 基 牧師  
 \*印 慶 子 牧師  
 \*山口 英希 牧師  
 \*海老原 直宏 牧師  
 \*荒平 大輔 牧師  
 \*浅野 謙 牧師

宮崎めぐみ聖書教会  
 宮崎柳丸キリスト教会  
 宮崎清水町教会  
 宮崎北聖書キリスト教会  
 川南せせらぎキリスト教会  
 霧島キリスト教会